説教20220529使徒言行録16：16-34ヨハネ17：20-26「父の愛と主人の利益」

今日は聖霊降臨前の主日です。私たちは来週の聖霊降臨日を迎える前に、聖霊の大きな恵みと力について、改めて思いを巡らして参りましょう。聖霊降臨日に必ずと言っていいほど読まれる聖書箇所、使徒言行録２章１節からには次のように記されています。「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。」つまり、聖霊というのは外から、風のようにやって来て、各自の内に入り込んで、そこにいる一同がその聖霊によって新たに交流できるようになったということです。教会というのはもともと、集まりという意味ですが、そうして新たに交流する者たちが、教会を建て上げていったということなので、聖霊降臨日、すなわちペンテコステは、教会の誕生の日と言われているのです。

言い換えれば、聖霊が下ってこなければ、この教会という場も生み出されないということですので、聖霊の働きというのは、何にもまして大切であると言えるでしょう。

聖霊というのは目には見えません。だからこそ、私たちは聖霊について思いを深くして、その大いなる力と恵みに圧倒され、この上ない喜びに満たされることでしょう。それでは聖霊について思いを深くして参りましょう。

今日の使徒言行録の聖書箇所では、占いの霊という一種の悪霊が出て参ります。この占いの霊は、聖霊と激しくぶつかり合い、霊と霊との闘いが起こっています。その闘いは、大地震を引き起こし、刑務所を打ちこわし、囚人たちを自由にし、又、社会に囚われていた看守たちをも自由にしました。聖霊がほんとうに働くとき、この様に、社会は、変革の時を迎えるのです。聖霊は、私たち一人ひとりのうちに深く宿って、私たちの思いや言葉や行いをつかさどると同時に、同じ聖霊に満たされた隣人達との交流の在り方をも変えていきますので、このように社会全体が変えられていくのです。実際、このパウロの生きた時代のローマ帝国はキリスト教を迫害しましたが、それから約３００年後には、ローマ帝国は、キリスト教を公認し、しかも国教、国の宗教とするまでに変化したのです。これはもの凄い変化でありますが、その片鱗は、今日の聖書箇所の、16章３４節「この後、二人を自分の家に案内して食事を出し、神を信じる者になったことを家族ともども喜んだ。」などに現れています。この様にして、キリスト信仰は、聖霊の働きによって、家族から家族へ、そして隣人から隣人へと次々に伝えられ、国中に広まっていったと考えられます。

しかし、なかなかこう言っても、聖霊のすばらしさを実感できない場合もあります。逆に、今のこの世の中を見渡してみますと、ふっと聖霊を手放してしまって、占いの霊などの悪霊のほうに誘われてしまいかねない大変な状況が到来しているように思われます。

実は、現代も、今ここで、聖霊と悪霊の戦いが起こっているのです。しかし今の私たちを取り巻く霊的な戦いは、パウロの時代のような、目に見える大変革ではなくて、じわじわと迫って来るような目に見えない変化であります。私たちは、この霊的な戦いに勝利するために、先ず、聖霊に敵対する占いの霊の実態について、よく知っておきたいと思います。

占いというのは、古今東西、その営みが絶えることがない、人間の間で根強い人気があるであります。私自身は、今まで、占い師としゃべったこともありませんので、証言することは出来ませんが、占い師というのは、人間の言葉でもって人間に取り入って、お互いの利益を図る営みである、と註解書には書いてありました。そして、人間の言葉でもって人間に取り入って、お互いの利益を図る営みというのは、占い師の生業に限らないことです。例えば利益を上げることだけに取り付かれた会社というのは、金儲けの望みだけに営まれるようになり、そこの社員もお客も、知らず知らずのうちに利益があるかないか、損か得かという価値判断だけによって行動させられ、そこでは肝心の喜びや恵みは損なわれていってしまいます。

この女占い師は、そのような生業をして来ただけあり、言葉巧みであります。パウロ達について回って、こう叫ぶのです。「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」パウロもこの占い師をなかなか振り払うことが出来ませんでした。パウロは彼女が何日もこう叫びながらついて来るのを許していました。それはなぜかといいますと、彼女のこの言葉が嘘ではなかったからです。つまり、こういう風に、クリスチャンを評するのは、間違いではありません。現に、私たちクリスチャンも、いと高き神の僕で、隣人たちに救いの道を宣べ伝えているのです。さらにこの占い師の言葉巧みなところは、この様に言われた相手を、持ち上げていい気分にさせるところでしょう。もちろんそれはへつらいの言葉であり、そのいい気分も一時的な事でしかありませんが、ともかくも、彼女は、こういうやり方で、複数の主人たちに取りいって多くの利益を得させていたのであります。

彼女が複数の主人たちに仕える、といいますか取引をできた理由というのは、当時のローマ帝国の体制に深く関係しています。当時のローマ帝国というのは、征服地の宗教を認めました。ですからその国では、ユダヤ教もギリシャ神話の神々も等しく認められて、信仰が許されていたのです。彼女が取引した主人たちというのは、ギリシャ神話の神々をたてまつる人々のことでした。ギリシャ神話の神々は、このマケドニア地方等ギリシャ社会全体を支配していました。正確に言えば、ギリシャ神話の神々を奉る人々の霊が、ギリシャ社会全体を席巻していたのです。その社会がどういう状況であったのかを次の聖書箇所から具体的に知ることが出来ます。使徒言行録19章24節からです。お読みします。「そのいきさつは次のとおりである。デメトリオという銀細工師が、アルテミスの神殿の模型を銀で造り、職人たちにかなり利益を得させていた。彼は、この職人たちや同じような仕事をしている者たちを集めて言った。「諸君、御承知のように、この仕事のお陰で、我々はもうけているのだが、諸君が見聞きしているとおり、あのパウロは『手で造ったものなどは神ではない』と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、たぶらかしている。これでは、我々の仕事の評判が悪くなってしまうおそれがあるばかりでなく、偉大な女神アルテミスの神殿もないがしろにされ、アジア州全体、全世界があがめるこの女神の御威光さえも失われてしまうだろう。」

これをよく読みますと、人々は皆、自分の利益を確保するために動かされています。人々は、実は女神アルテミスを信仰して礼拝しているわけではなくて、実は自分の利益を信仰しているのです。この社会では、隅々に至るまで、この利益信仰が浸透して、神々は、いわばその口実やダシに使われている、といった状況を、私たちは目の当たりにすることが出来ます。

このようにして、当時のギリシャ社会は、一種の悪霊に席巻されていたと、言えますが、先ほどの女占い師の霊も、この悪霊の一種であり、彼女に取り付いていた悪霊も、社会に広く受け入れられて、そして彼女は複数の主人たちに仕えて、その生業を続けることが出来たのでした。

占い師の言葉「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」は見てきました通り、言葉巧みであり、多くの主人たちの心を捕え、彼女は人間の言葉によって、多くの成功体験をつんできました。そんな彼女に対して、手を焼いていたパウロは、彼女を支配していた霊に向かって言いました。「イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け。」

ここでパウロは彼女に人間の言葉ではく、神の言葉を告げたのであります。この神の言葉を聞いた彼女はこの時、今迄自分が口実やダシに使っていた神様というお方が、実は言葉を語り生きておられるのだということを、はじめて知らされたのです。

このパウロと占い師とのやり取りの中に、私たちは個人的なレベルでの霊的な戦いの様を見ることが出来ます。彼女は長い間どっぷりと悪い霊に支配されていました。彼女は人間の言葉に巧みであり、パウロは人間の言葉で彼女を説得することが出来なかったのです。そこのところに、必然的にと言いますか、時に適って、神の言葉が語られ、彼女の中から悪霊が追い出され、彼女の中に聖霊が吹き込まれたのでした。

この、個人的な回心の出来事は、当時の社会に風穴を開ける出来事になりました。たった一人の個人の回心が、社会的に見過ごすことが出来ない重大事であったわけは、この出来事が、悪霊に囚われてつながっている当時の社会の風習を、根本的に変えていく力を示したからでした。この様なことを許していたら、次から次へと人々が、聖霊によって行動するようになり、従来の風習がないがしろにされて、従来の生業が立ちいかなくなってしまう、と社会の人々は危機感を懐き、そうしてパウロ達を牢屋に閉じ込めたのでありました。

このようにまことに聖霊に捕らえられた個人は、社会全体を変えていく働きを担っていくようになります。パウロ達を閉じ込めた看守は、自殺を図ろうとしましたが、囚われていた囚人たちは自由になりました。このことは、社会の悪い風習によって、私たち人間が知らず知らずのうちに囚われの身にさせられていることを物語っています。逆に、聖霊に捕らえられた個人は、自殺を図ろうとするものに対して「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。」と言って、神の言葉を語り、神の希望に生きる道を示すことが出来るようになります。

ここまで聖霊と悪霊の違いを語って参りましたが、その聖霊は、主イエスの御言葉を聞く私たちに、いまここにも降り注いでいます。今は天に居られる主イエスは、天に昇られる時、次の様に言われました。「あたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

聖霊によって私たちが力を受けるというのは、私たちが人間の利益によって操られるのではなく、神の愛によって、恵まれ歩まされるということです。天の主なる神は、愛によって私たちを一つにしようとされています。私たちが神の愛に留まり、一つにされていくことが父子聖霊の神の一致した願いであります。ですから、私たちが、人間の本当の主人である父なる神の栄光をないがしろにして、人間だけの利益を追い求める世の中はやがて行き詰ってしまいます。

今日のイエス様の御言葉、「わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」という御言葉を、私たちがそのまま隣人たちに告げ知らせることが出来ますよう、聖霊の働きを祈り求めて参りましょう。

祈ります

父なる神

あなたは、私たちに聖霊を降され、私たちが聖霊によって恵みと力を受けることが出来るようにしてくださいました。どうか私たちが聖霊によって、心を御子イエスに向けて、常に御業を行っていくことが出来るようにしてください。

この世の歩みで、知らず知らずのうちに様々なことに囚われ、苦悩する私たちを聖霊によって満たし、まことの自由へと解放してください。人と人とが利益を争い、血を流しながら戦っているこの地上の悲惨さに目を留め、御言葉によって私たちを憐み慰め、癒して下さい。命を断とうとしている方のかたわらで、私たちが、あなたの命の御言葉を告げ知らせ、あなたの命に生きる者へと導き返して下さい。

ペンテコステを迎えようとしている私たちが、キリストにあって一人であり、全ての教会の体の枝として、全ての人とつながっていることの恵みを覚えつつ、諸教会のためにも祈り働いていくことが出来ますように。

あなたは私たちを愛するために選ばれました。私たちがあなたの愛に留まり、あなたの愛によってつながっていくことが出来ますように。この世の全ての営みは、あなたの愛と恵みによらなければ空しいことです。どうか聖霊によって私たちを導き、あなたの御栄を建て上げる技をどこにあってもなさしめてください。

父と聖霊と共に